

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(7/21)

文・写真：武田、写真：倉谷、山國

日時：2019(令和元)年 7月 21日(日) 9:30~15:00

気象：天候=晴(下山時 通り雨)

活動エリア：「44林班ろ」、

活動内容：「44林班ろ」内の林床整備(枯損木・倒木・中折れ木の除伐)と作業道の補修、

参加者：猪川 誠、泉家恵子、斧田一陽、小櫃徹夫、工藤貴志、倉谷邦雄、黒山泰弘、薦田佳一、

武田壽夫、福西勇之介、宮本 廣、山田真也、山 國

計 12名

<久しぶりの……>

梅雨入りは例年より 19日遅れの 6月 26日。梅雨入りが早かった他所の様子だと今年の降り方はゲリラ的でハンパない集中豪雨。そんな空模様を懸念して**第一木曜日も代替日も活動は大事をとっての「お休み」、今日は久しぶりの顔合わせ。**

この夏の活動地は「44林班ろ」内、自然林との境目辺りに本山寺の水源を抱えた谷、前回報告の通り、台風の傷跡が随所に残っていて、中でも作業道の傷みは往復の足取りを剣呑にする。そこで、**作業道修復二組、山腹の林床整備二組に別れて作業**に取り掛かる。内、チェーンソー操作者は 2人。倒木の太い下部は玉切りして陥没箇所の穴埋めに、径 20cm 以下の部分は長めに伐って路肩補強に活用する。大助かりである。

<今日の成果>

作業道の陥没箇所は水源の少し手前、この辺り、山腹の崩落で路面も狭まっている。おまけに本山寺への導水管が露出しているので作業は慎重、且つ大胆に。5m 程は大分埋め戻しが進んだ。もう一組の道づくり組は本山寺水源への途中の作業道の補修などに取組。

一方、林床整備組は急傾斜で崩れ易い足下、倒木は根起し・長尺モノ・中折れと難物揃い。チェーンソーのお蔭もあって 0.1ha は片付けた(が、「前途ほど遠し 思いは……」)。

cf.「前途程遠し、思ひを雁山の暮の雲に馳す」(平家物語より)

<山の生きものたち>

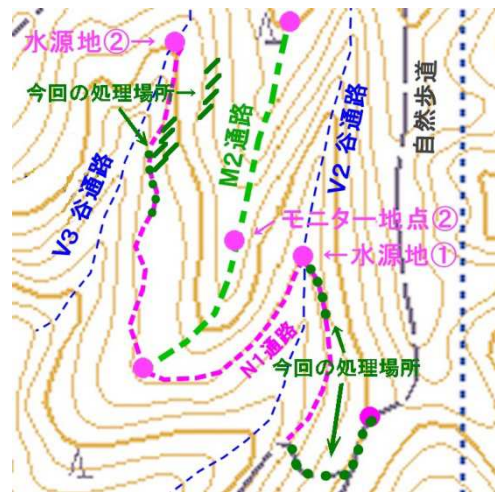
センチコガネ(雪隠黄金虫)とベニテングダケより猛毒のテングダケ。ものの本によればセンチコガネは動物の糞を食べる糞虫で自然界の物質循環に果たす役割は大。また、メスは獣糞を土中の巣穴に引き込んで育児球を作り産卵するとか。ご丁寧に枯葉で包むそうな。

(本文 終り)

<集合写真—終了時>



<活動地要図>



<出発前—チェーンソーの点検>



<用材を玉切り中>



<路肩補強材を運ぶ>



<作業道の陥没箇所>



<ほぼ埋め戻した状態(作業道拡幅未了)>



<山の新しい「忘れ物」>



<曲がった木を除伐する>



<倒したら玉切り>



<センチコガネ>



<テングダケ>

